# 「空飛ぶクルマ」が現実に

## トヨタ、「空飛ぶクルマ」参入

### 米ベンチャーに430億円出資

トヨタ自動車は16日、「空飛ぶクルマ」の開発を進める米ベンチャー、ジョビー・アビエーションと提携すると発表した。3.94億ドル（約430億円）を出資した。車の生産や技術開発の知見をいかし、新たに空の移動手段の開発を加速させる。

朝日新聞より(20.1.17)

ボーイングの「空飛ぶタクシー」、テスト飛行の成功で見えてきた実用化へ …

ボーイングの「空飛ぶタクシー」、テスト飛行の成功で見えてきた実用化への道のり(動画あり)ボーイングの「空飛ぶタクシー」が、このほどテスト飛行に成功した。わずか1 分未満の浮上は大きな進歩だが、浮上から前進飛行への移行といった課題が立ちはだかる。しかし、エアバスやベルといった大手企業が、Uberが目指す「空飛ぶタクシー」のプロジェクトに参画して開発競争を繰り広げるなか、徐々に実用化への道筋も見えてきた。

テスト飛行の成功

「空飛ぶタクシー」実用化？ウーバーが2020 年までに(17/11/09) - YouTube

実用化、2020 年までに

CES 2020:「空飛ぶタクシー」に自動車メーカーも参入、その技術は着実 …

**Uberとの差異化を狙うベル** ベルは2050 年まで

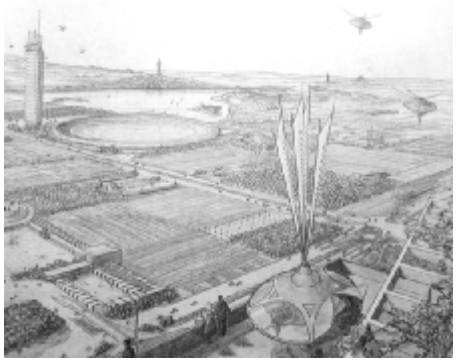
航空分野に限定されるとはいえ、ベルも航空機を生産するノウハウを生かせる。同社も

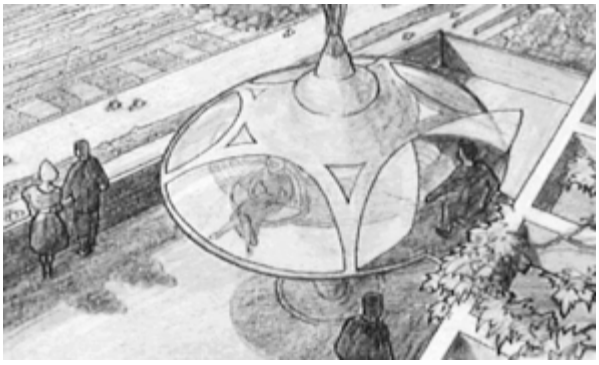
Uberと提携しているが、インフラと航空機管理のエコシステムを供給する部分に限られている。
ベルは2050 年までに人口の70パーセントが都市部で暮らすようになるという予測に触れたうえで、・・・。

空飛ぶタクシー、ボッシュが実用化へ…自動運転と自動飛行 ｜ レスポンス …

2021 年末までに、車両や航空機の周囲からデータを収集して処理できるエネルギー効率の高いさまざまなコンポーネントを開発する。

昔から街の空を車が飛んでいる空想の絵はいろいろなところで発表されています。
当時、地域航空総合研究所所長　西川　渉氏は、近年、専門家の間で「ヘリコプター・アクセプタンス」という言葉が聞かれるようになった。その意味するところは、社会一般に広くヘリコプターを受け入れて貰うためには如何あるべきかという問題提起であろう。と述べている。
そして、ここ数日来の頭の中の思考の流れにまかせて、フランク・ロイド・ライトを取り上げたい。下の絵で、私が昔から気に入っているもののひとつである。
そこら中をヘリコプターに似た回転翼を持つ円盤のような自家用機が飛び回っているからにほかならない。





その絵は、FLライトが1958 年に描いた「リビング・シティ」に人工的な建築と自然とが調和のとれた景観をつくるように提案したのがこの都市の絵である。
そして誰もがどこでも、このシティコプターに乗って飛び回れるように、各家庭はもとより、町の至るところに駐機場が設けられる。
「シティコプター」の構造はどうなっているのか、外観は空飛ぶ円盤のような形で全体は透明な材質でおおわれ、頭上では4枚ブレードのローターが回り、下面には独楽の心棒のような脚が細長く突き出ている。
フランク・ロイド・ライトは、こうした理想の都市構想を発表し、その中にヘリコプターを飛ばしてまもなく、1959 年４月９日、91 歳で死去した。(抜粋しました)

PS：この西山氏の記事は2010.5 頃、偶然見つけたサイトでした。この記事をもう一度確認してみようと思い検索しました。航空の現代 2（新編）となっており当時の記事は、見つけることができませんでした。シティコプターの写真は西山氏のサイトより

※1ページから2ページ目にかけての記事はネットで見つけた記事を掲載しました。
※2「空飛ぶタクシー」は「ドローンタイプ」「車タイプ」「軽飛行機タイプ」など。

植木　20.2.5